

# 鎌倉市鏑木清方記念美術館 令和7年度(2025年度)第1四半期実績評価

## 1 利用の承認等に関する業務(第1号)

- ・この四半期の来館者数は4,631人で、昨年度の同四半期来館者数4,644人と同程度だった。
- ・特別利用の申請に対し、適正に対応した。(承認件数:熟覧3件、原版使用4件)

## 2 施設及び設備に関する業務(第2号)

- ・保守点検及び清掃について、適切に実施した。

## 3 鏑木美術品等の収集、修復、調査研究等に関する業務(第2号)

- ・美術品の適切な温湿度管理を実施した。
- ・作品棚卸し(所在確認)を4月24日、5月15日、6月19日に実施した。
- ・鏑木清方の日記について翻刻を行った。
- ・鏑木清方や関連人物・事項について調査を行った。

## 4 美術館の事業の企画及び実施に関する業務(第3号)

・前年度の開催から引き続き4月13日までは、企画展「着物の美—清方美人の着こなし」を開催した。清方が愛した着物の美に焦点を当て、当時の女性たちの洗練された着物の着こなしを鑑賞でき、美人画への新鮮な驚きを与える展示であった。4月17日から5月21日までは、特別展「もの想う美人—明橋コレクションでたどる女性美」を開催した。江戸から昭和にかけての美人画で構成される明橋コレクションを展示し、清方以外の画家による多岐にわたる作品が並び、時代にあわせて移ろう表現や「もの想う」女性の美しさを鑑賞することのできる展示であった。5月24日から6月29日までは、特別展「美はすぐそこに—主情派・鏑木清方—」を開催した。市井の人々そして清方自身が慣れ親しんだ東京の下町の暮らし、四季折々の町の情景を描いた作品から、「美人画家」という枠組みではなく身近なところに心動かされる美を見出す「主情派・鏑木清方」の魅力を紹介する展示であった。

- ・講演会やワークショップを開催し、教育普及に努めた。

(実施内容)

- ・展示解説 合計23回(参加者437人)
- ・春休み親子鑑賞 4月1日～6日(37人) ※春休み期間の小中学生と同伴者の利用が無料
- ・親子・子ども参加プログラム 4月3日、5日(25人)
- ・市民講座 5月3日、6月21日(40人)
- ・日本画ワークショップ 5月25日、6月22日(43人)
- ・美術講演会「上原コレクションにみる美人画—鏑木清方を中心に」 6月7日(31人)
- ・川喜多映画記念館と協力し、「紫陽花の咲く記念館を巡る展示解説ツアー」を実施した。(4日間合計114人参加)
- ・チラシ、ポスター等の作成及びSNSの活用により、美術館の活動周知を積極的に実施した。
- ・5月20日から26日まで、地下道ギャラリー50において子ども参加プログラムの作品を展示した。

## 5 その他市長が定める業務等(第4号)

- ・法令を遵守し、適正な美術館の運営を行った。
- ・定められた期日までに例月の指定管理業務報告書を提出した。
- ・市と連絡調整を適切に行った。

## 6 全体評価

・この四半期の来館者数は4,631人で、昨年度の同四半期来館者数4,644人と同程度と言える。4月及び5月に限れば来館者は微増しており、これは積極的なイベント企画や広報によるものといえる。

・2回の特別展では、鑑賞のポイントが分かる冊子を無料で配布した他、対話型鑑賞による展示解説を実施したが、来館者が理解を深める助けとなるものであり、良い試みだった。また、この四半期中においては、子ども向けのプログラムを多く開催したが、日本美術に対する敷居を下げ、美術館を身近に感じてもらう取組といえ、今後もプログラム内容を工夫しながら、取り組んでいってほしい。

・例年4月の平日を含んだ期間にまとまって開催していた市民講座や美術講演会は、より多くの参加者を取り込むために、休日の開館日に、場所を美術館から移して実施したことを確認した。これまでの実施方法を見直し、改善していく姿勢は今後も継続されたい。

・清方の好んだ風習に倣った赤い水引の配布など、機を捉えて関連グッズを配布することは、美術館への理解を深めると同時に、来館者の満足度を上げる取組だったといえる。引き続き、第2四半期も来館者が再び訪れたいような企画を充実されたい。

・作品及び資料の調査研究を引き続き計画的に進めるとともに、その成果をより多くの方々に伝えていくよう積極的に取り組まされたい。

・施設の維持管理業務に関しては、日常点検をはじめ、各種定期点検を計画的に実施している。市への報告も徹底されており、適切な対応が取れている。

※評価の項目は条例第4条第1項の各号に準じる。